

第3章 さがみはら地域遺産の概要

第1節 指定等文化財

法、神奈川県文化財保護条例、相模原市文化財の保存及び活用に関する条例に基づく本市の指定等文化財は、国指定 11 件、県指定 17 件、市指定 67 件、国登録 10 件、市登録 74 件の合計 179 件で、表 3-1 及び資料編の図資-1・2、表資-1 に示すとおりです。

文化財の類型別にみると、有形文化財の建造物 32 件、美術工芸品 70 件、民俗文化財のうち、有形の民俗文化財 27 件、無形の民俗文化財 9 件、記念物のうち、遺跡 27 件、名勝地 1 件、動物・植物・地質鉱物 13 件からなり、有形文化財が半分以上です。一方で、無形文化財はなく、無形の民俗文化財も全体に対する割合が少ないです。記念物のうちの名勝地についても、渓谷、山岳その他の自然景観である名勝地の指定・登録はありません。

文化財所在地を地域別にみると、旧相模原市域が 103 件、旧津久井 4 町域が 67 件と市外所蔵等が 13 件です。旧相模原市域に文化財件数が多い理由は、歴史資料や遺跡の市登録文化財の登録が先行して進んでいたことによります。

なお、文化財の保存技術の選定はありません。

表3-1 指定等文化財件数一覧 (令和7年8月31日現在)

種類	種別	国	国	県	市	国	市	計
		指定・選定	選択	指定	指定	登録	登録	
有形文化財	建造物	1	—	3	7	10	11	32
	絵画	0	—	3	3	0	0	6
	彫刻	0	—	0	16	0	0	16
	工芸品	2	—	1	1	0	0	4
	書跡・典籍	0	—	0	0	0	0	0
	古文書	0	—	0	4	0	0	4
	考古資料	0	—	2	16	0	0	18
	歴史資料	0	—	0	10	0	12	22
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	0	1	0	26	27
	無形の民俗文化財	0	(1)	3	2	0	4	9
記念物	遺跡	4	—	0	6	0	17	27
	名勝地	0	—	0	0	0	1	1
	動物・植物・地質鉱物	4	—	5	1	0	3	13
文化的景観		0	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	0
計		11	(1)	17	67	10	74	179

※「—」は、法あるいは条例に該当のないものを示します。

※無形文化財の指定件数は 0 件ですが、国指定重要無形文化財(総合認定)の観世流能楽師の保持者が本市内に在住し、能楽の公演と普及活動が行われています。

1. 有形文化財

①建造物

建造物は32件（国指定1件、県指定3件、市指定7件、国登録10件、市登録11件）が指定・登録されています。市域に残る指定等文化財に中世に遡るものではなく、江戸時代初期から現代のものがあります。このうち、主屋、長屋門、蔵等の民家建造物が最も多く14件を占め、他に神社本殿、寺院本堂、門、庫裏といった社寺建築が11件、近代の水利施設、戦争遺産、橋梁といった近現代の建造物が6件あります。

民家は宝永4（1707）年の墨書を留める石井家住宅が市内唯一の国指定重要文化財で、18世紀初期の農家住宅としては規模が大きな民家です。おばら小原宿本陣（県指定）は県内の街道に26軒あった本陣建物のうち、唯一残されているものです。江戸時代後期の再建と推定され、奥座敷3室をもつ本陣にふさわしい構えを備えます。かみみぞ上溝かめがいけ亀ヶ池八幡宮旧本殿（市指定）は、棟札により文禄5（1596）年の建立で、市内で最も古い上、建立年代が判明する一間社流造の社殿としても県内最古です。近代の文化財は、日本初の近代水道である横浜水道の第1回拡張工事で、明治30（1897）年に完成した旧青山取水口と沈殿池（国登録）が保存されています。



図3-1 亀ヶ池八幡宮旧本殿

②美術工芸品

美術工芸品は70件（国指定2件、県指定6件、市指定50件、市登録12件）が指定・登録されています。このうち、寺伝来の仏画や頂相（住持肖像）の絵画が6件、仏像・神像の彫刻が16件、刀剣や鰐口の工芸品が4件、寺伝来の文書が4件、考古資料が18件、板碑や墓石等の供養塔、石碑や句碑、扁額、絵図、日記などの歴史資料22件があります。絵画、彫刻、工芸品、古文書は中世～近世、考古資料は旧石器時代～古代、歴史資料は中世～近現代にいたる文化財です。

すわらしけんきょうじ もくぞう あみ だにょらいざぞう寸沢嵐顕鏡寺の木造阿弥陀如来座像（市指定）を最古に、平安時代後期から中世の仏像彫刻が津久井地域に多く残されています。加えて、なぐらしょうねんじ くまのごんげんようごうず名倉正念寺の熊野権現影向図などの仏教絵画、中沢普門寺や小原日天社の鰐口（県・市指定）といった梵音具など、津久井地域には中世の信仰に関わる文化財が多くみられます。無量光寺には戦国大名の小田原北条氏を中心とする中世文書群があり（市指定）、青山光明寺も関東管領扇谷上杉氏や古河公方足利氏、津久井城主内藤氏からの中世文書群が残されています（市指定）。江戸時代は、天然理心流の免許皆伝を受けた小泉道場の神文しんもん血判帳並びに序目録（市指定）、江戸末期の最大の新田開発に関わる清兵衛新田開墾記念碑（市登録）、芭蕉句碑（市登録）など、近世農民の文化活動を語る文化財があります。

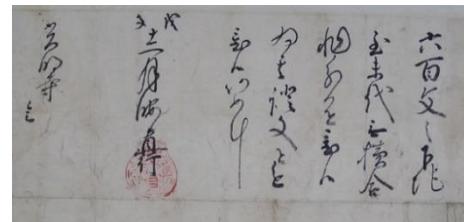


図3-2 光明寺文書（内藤氏朱印状）

2. 民俗文化財

①有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は27件（市指定1件、市登録26件）が指定・登録されています。村富神社には民俗芸能としての獅子舞は途絶えていますが、文化3（1806）年の墨書記銘を留める三匹獅子舞の獅子頭（市指定）が残されています。

ほかは全て石造物で、江戸時代後期に各地で念仏を広めた浄土宗の僧徳本による六字名号（南無阿弥陀仏）を刻んだ徳本念佛塔（市登録）が市内各所に建立されており、24件を占めます。地域の念佛講や生活史を知る上で貴重です。他に梅宗寺の百觀音（市登録）、久保沢観音堂の百体觀音（市登録）があり、江戸時代の觀音靈場を巡礼する信仰を語る文化財です。



図3-3 相原正泉寺の徳本念佛塔

②無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は9件（県指定3件、市指定2件、市登録4件）が指定・登録されています。このうち、獅子舞が4件、神社行事が1件、年中行事の大凧揚げが1件、農村の仕事唄が2件、村歌舞伎1件からなります。

一人立ち三匹獅子舞は南東北から関東に広がる獅子舞で、その南限とされる本市域に4件が継承されており、県内でも数が多く特徴的です。相模原地域の下九沢御嶽神社、大島諏訪明神、田名八幡宮と津久井地域の鳥屋諏訪神社の夏の例祭に奉納されています（田名が市登録、ほかは県指定）。その他、田名八幡宮で毎年1月6日にその年の豊凶を占う歩射行事「的祭」が継承されています（市指定）。ほかに、上溝のぼうち唄や大沼の土窯つき唄といった、市域では数少ない仕事唄や、明治から昭和にかけて藤野の山村で興行されていた藤野の村歌舞伎が市登録無形民俗文化財に登録されています。



図3-4 鳥屋の獅子舞

3. 記念物

①遺跡

遺跡は27件（国指定4件、市指定6件、市登録17件）が指定・登録されています。このうち、旧石器時代2件、縄文時代3件、古墳時代の古墳2件が発掘調査によるもので、その他の江戸時代以降の社寺境内や墓地、塚、ヤツボ、伝承地などです。相模川流域沿いに旧石器時代で国内最古の建物跡が発見された田名向原遺跡や県内で縄文時代の史跡指定第一号となる寸沢嵐石器時代遺跡、縄文時代の集落跡である川尻石器時代遺跡、勝坂遺跡が国史跡に指定されています。戦前指定の寸沢嵐石器時代遺跡や川尻石器時代遺跡は、その調査から保存そして活用まで地元住民の尽力が

大きく、寸沢嵐石器時代遺跡では指定2年後の昭和7（1932）年に遺構覆い屋施設である六角堂や御影石製の石柱を建立しており、現在も残されています。戦前の整備の歴史を語る上でも貴重です。

市指定には当麻東原古墳や当麻谷原古墳（1号墳）のほか、一遍上人ゆかりの無量光寺境内及び笈退の遺跡、近世淵野辺村の領主であった龍像寺の岡野氏墓地、近代測量発祥の地である相模野基線北端点が指定されています。市登録には相模野台地の地質の特性によって形成された湧水や宙水を舞台背景として生まれた照手姫伝説伝承地やでいらぼっち伝説伝承地、段丘崖の湧水を溜め池状にして地域の人々の水場として利用された大島地区の「ヤツボ」などが登録されています。



図3-5 寸沢嵐石器時代遺跡
敷石住居跡

②名勝地

名勝地は市登録の1件が登録されています。昭和13～14（1938～1939）年にかけて当時の大野村に旧陸軍通信学校の建設工事が進められ、その一角に建築された将校集会所の前庭として作庭されたのがフランス式庭園です（相模女子大学構内）。将校集会所の付帯施設として造園され、軍都として開発された相模原の歴史を語る近代の文化遺産です。



図3-6 旧陸軍通信学校フランス式
庭園

③動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物は13件が指定・登録されています。このうち、動物が7件（国指定4件、県指定2件、市登録1件）、植物が6件（県指定3件、市指定1件、市登録2件）からなり、地質鉱物の指定等文化財はありません。

津久井地域ではカモシカやヤマネ（国指定）が生息し、特に藤野地区はキマダラルリツバメ・ギフチョウとその生息地、カタクリの自生地が保護されており（県指定）、県内でも貴重な動植物の宝庫です。市域の原植生であるシイ・カシ林のうち、巨樹である城山のウラジロガシ（市指定）やシラカシを中心とした勝坂の照葉樹林（市登録）、その麓の湧水に生息する勝坂のホトケドジョウ（市登録）が保護されています。



図3-7 ギフチョウとその生息地

第2節 未指定文化財

これまでの市史・町史編さん事業による調査や、各種文化財の網羅的調査、博物館建設準備に向けた調査、『津久井郡文化財』刊行による調査等の成果により、令和7(2025)年3月現在、市域で把握した未指定文化財は114,907件にのぼります(表3-2)。文化財の類型別にみると、有形文化財の建造物1,161件、美術工芸品98,213件、民俗文化財のうち、有形の民俗文化財13,813件、無形の民俗文化財717件、記念物のうち、遺跡545件、名勝地9件、動物・植物・地質鉱物13件、文化的景観2件、伝統的建造物群1件、その他の歴史的・文化的所産433件からなります。このうち、有形文化財の美術工芸品が98,213件と最も多く、次いで民俗文化財14,530件、建造物1,161件、記念物567件となります。

表3-2 未指定文化財の集計表

(令和7年8月31日現在)

種類	種別	地域						計
		旧相模原市	旧城山町	旧津久井町	旧相模湖町	旧藤野町	地域をまたぐ	
有形文化財	建造物	421	72	390	91	187	0	1,161
	絵画	57	7	565	20	35	0	684
	工芸品	199	8	29	15	24	0	275
	古文書	20,095	821	2,090	26	693	0	23,725
	書跡・典籍	30	1	6	2	2	0	41
	彫刻	411	65	1,172	93	215	0	1,956
	考古資料	38,778	496	22,228	0	445	0	61,947
	歴史資料	7,176	1,039	676	83	611	0	9,585
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	12,021	364	921	264	243	0	13,813
	無形の民俗文化財	238	68	82	195	133	1	717
記念物	遺跡	245	60	118	48	74	0	545
	名勝地	3	1	0	3	2	0	9
	動物・植物・地質鉱物	7	1	4	0	1	0	13
文化的景観		0	1	0	0	1	0	2
伝統的建造物群		0	0	0	1	0	0	1
文化財の保存技術		0	0	0	0	0	0	0
その他の歴史的・文化的所産	歴史的地名	18	1	7	4	4	4	38
	昔話・伝説・伝承	206	22	2	129	36	0	395
計		79,905	3,027	28,290	974	2,706	5	114,907

※遺跡は法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地をカウント

1. 有形文化財

①建造物

建造物は 1,161 件確認しています。都市部である相模原地域は、平成 2（1990）年に把握されていた近世から近代にかけての民家は急速に減少していますが、対して開発が緩やかな津久井地域は、より多くの民家を把握しています。社寺建築においては、細部の意匠に優れた近世の本殿や本堂のほか、近世に遡る数少ない開山堂や庫裏など貴重な建造物も残っています。また、近代遺産である横浜水道の建物や隧道、沈殿池などのほか、戦争の歴史を語る旧軍施設、畑地灌漑や橋梁等の近現代土木遺産も多く確認できます。戦後の近現代建造物は日本建築家協会 25 年賞を受賞した相模原ふれあい科学館アクアリウムさがみはら等があります。



図 3-8 横浜水道 川尻隧道下口

②美術工芸品

美術工芸品は 98,213 件確認しています。近年刊行された『相模原市史』と『津久井町史』文化遺産編の編さん事業に伴い、社寺所蔵品の網羅的な調査を行い、神像・仏像彫刻、仏具などの工芸品、絵馬、絵画、書跡の多くを把握しました。その他、近世農民の暮らしや出来事を物語る地方文書などの膨大な歴史資料が把握しています。近年の発掘調査による新発見資料や博物館に寄贈・寄託される人文系資料も隨時確認しています。



図 3-9 功雲寺の涅槃図

2. 民俗文化財

①有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は 13,813 件確認しています。これまで把握されていなかったものに、夏祭りに巡行される神輿や、祭囃子の舞台でもある山車、山車人形があり、中には江戸時代や明治時代に遡るものもあります。ほかに無形の民俗文化財（民俗芸能）として指定されている獅子舞に用いる獅子頭や太鼓なども、墨書き銘から江戸時代に遡るものが把握されています。その他、近世領主の石碑や道標といった石造物が多数確認されています。また、博物館には養蚕道具や農機具、鍛冶道具などの諸職の諸道具のほか、さまざまな生活道具が民俗資料として保管されています。



図 3-10 農具（博物館常設展）

②無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は 717 件確認しています。近年、相模原市地域文化財活用実行委員会を組織し、文化庁の地域伝統行事・民俗芸能等継承振興事業に取り組むことで、市内の多くの祭囃子団体が本事業を用具修理に活用し、祭囃子の把握が進んでいます。また、上矢部御嶽神社の湯立神事や無量光寺の開山忌法要における双盤念仏、功雲寺の道了祭など、これまでの調査で特徴的な伝統行事を把握しています。



図 3-11 上溝夏祭り

3. 記念物

①遺跡

市内には 545 か所の埋蔵文化財包蔵地を登録しており、その面積の合計は約 23 km²で、市域 328.91 km²の 7 %を占めます。その多くは河川沿いに分布しています。その他、埋蔵文化財包蔵地の扱いとは別に、近世以降のより新しい時代の遺跡も確認されます。牧野には神原家住宅長屋門が江戸時代の長屋門として国登録有形文化財になっていますが、江戸時代後期に編さんされた『新編相模国風土記稿』には駿河の戦国大名今川義元の家臣であったことなどの来歴が記されるとともに、土塁に囲われた屋敷図が載せられています。主屋は現存していませんが、当時の情景を現在もよく留める屋敷地です。

むかいはら 向原から大島の段丘崖に走る切通しの道は、横浜水道の水道管を配管した道で、地元では運搬にトロッコが使用されていたことから、「トロッコ道」と呼ばれています。切通しの崖地に石垣が残っており、近代水道を構成する遺跡です。段丘崖の湧水を利用したものに、大島から田名地区に分布する「ヤツボ」や、上溝から当麻たいまに見られるワサビ田の跡があります。段丘崖に露出する中津層群塩田層から石材を採掘した塩田しおだ石の石切り場、津久井地域に残る炭焼き窯の跡なども、地域の特色があります。

②名勝地

名勝地は 9 件確認しています。かながわの景勝 50 選に、相模川にかかる小倉橋周辺や津久井湖の南側に聳える城山、広く平坦な山頂の山体をなす陣馬山、無量光寺の境内が選ばれています。その他、津久井地域には鑑賞に優れた渓谷や滝などが見られます。

③動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物は13件確認されています。このうち動物が2件、植物が4件、地質鉱物が7件あります。塩田の石切り場跡は、相模野台地の基盤にもなる約200万年前の中津層群塩田層で、下溝では鳩川の河床に確認されます。また、津久井地域において、博物館を主体に調査を進めており、津久井地域の特徴的な植物群落などを把握しています。



図3-12 塩田の石切り場跡の
中津層群塩田層

4. 文化的景観

文化的景観は2件確認しています。神奈川県では、里地里山の保全、再生及び活用を進めるため、神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例（平成19年神奈川県条例第61号）を平成20（2008）年4月に施行しました。この条例に基づき、本市内では現在、小松・城北と篠原の里が、里地里山保全等活動区域に指定されています。小松・城北は境川の上流域に位置し、北、西、南の三方を山に囲まれた市内でも有数の規模の谷戸からなる地域です。篠原は石砂山などの山々に囲まれた植生豊かな自然が残されている地域です。いずれも里山の文化的景観が保全されています。



図3-13 小松・城北の里地里山の景観

5. 伝統的建造物群

伝統的建造物群は1件確認しています。江戸時代に甲州街道の宿場として設けられた小原宿は、本陣建物が残っています。明治28（1895）年の大火で本陣は延焼を免れましたが、宿の多くの民家が焼失しました。その後の民家建築で、近代の建物が主となります。現在も宿場としての景観を残しており、本市の景観計画では景観形成重点地区の候補地区としています。



図3-14 本陣のまわりに町並みが残っている

第3節 その他の歴史的・文化的所産

①歴史的地名

旧自治体単位で地名調査を行いました。地名には、野部氏の「矢部」など中世に台頭する横山党武士団が名乗ったものや、「根小屋」や「御屋敷」など過去の土地利用に関わるものなど、地名から地域の歴史をなぞれるものもあります。また、鎌倉幕府御家人の和田義盛の伝承を付加した「和田坂」や「藤橋」、戦国時代の合戦を背景とした「信玄道」や「首洗い池」、江戸時代の信仰の隆盛を語る「当麻山道」や「大山道」、人々と物の往来を語る「津久井道」や「八王子道」、民間伝承を語る「ひの坂」や「美女谷」、近代水道の敷設にちなんだ「トロッコ道」や「水道橋」など、道や坂、橋のほか、川や池、沼、崖の地名にも地域に語り継がれる様々な歴史文化の一部が構成されており、そこに有形・無形の地域遺産が関わることもあります。



図 3-15 寸沢嵐の首洗い池

②昔話・伝説・伝承

各地域で人から人へ語り伝えられてきた昔話（民話）、伝説、伝承は、相模原地域では郷土史家の座間美都治によって地区ごとにまとめられており、65話が紹介されています。塚、石造物、お堂、地名、石などの由来や、白蛇、狐、狸、狼などの動物に関連した話、淵辺義博、一遍上人などの歴史的人物に絡む伝説、小栗半官・照手姫の伝説、祟りや怪談など様々な話が伝わっています。津久井地域では『相模湖町史』民俗編に伝承としてまとめられているほか、藤野の山間部には古事記のヤマトタケルの東征伝承が知られています。



図 3-16 田名のばんばあ石とじんじい石